

NEW JACTIM JOURNEY



No.3 (2019年4月)

会頭 井水 啓之

皆様、こんにちは！

僭越ではございますが、3月21日のJACTIM年次総会におきまして、会頭を更に1年継続して担当させていただくことになりました。同様に、副会頭、理事、各種委員会・部会体制等の新体制も固まり、既に、新年度がスタートしております。皆様、何卒、宜しく願い申し上げます。

そこで、第3号は「会頭としての所信表明」について改めまして、簡潔に述べさせていただきます。

まず、JACTIM運営の基本はこれまで通り、4つの軸で「経営」して参りたいと存じます。

ご存知の通り、“お客様第一の経営”、“選択と集中の経営”、“衆知を集める経営” “スピード経営”です。運営面の目標としては、アンケート回収率50%、組織率50%を引き続き、掲げて参ります。

2018年度においては100日計画を立案し、主に、内部の運営面の改革を通じて、政府にしっかりと向き合える体制づくりを中心に進めて参りました。皆様、本当にご支援有難うございます。

一年間、会頭職を担当させていただきましたが、感想としては、目まぐるしく変化に富む一年で、忙しかったこと、更に、突然のメディア取材など臨機応変に対応が必要な案件も間々あり、日頃から準備を重ね、関係の皆様と共有しておくことの大切さを実感した一年でもありました。

併せて、外国人労働者の雇用周りでは、イミグレーションの突然の査察やグローバルな人権意識の高揚、政府間関係に起因する特定国の外国人労働者の新規採用の停止、また、税務面を中心に優遇税制の減少や、オペレーションコストの上昇、また、新税制の基準や解釈の曖昧さなど様々な経営リスクが増してきていることも強く認識できた一年でもあります。

そしてご関係の皆様の方により、JACTIMとして新体制に何とか向き合い始めることができた一年でもありました。

そういう環境下において、2019 年度は一言で申し上げますと、“**成果を会員企業に還元できる一年**”にしたいと思います。

具体的には

- ① 外政面においては MITI/MIDA との関係を軸にしながらも首相や財務省に加えて、人的資源省、内務省、IRB 等との関係を強化し、「マルチプレイヤー化」を一層、進めること。
 - **MITI/MIDA とはコミュニケーション頻度を上げて、常時、課題の共有化、アップデートができていような運営、関係づくりを目指すこと。**
 - **コンプライアンスリスクにも視野を向け、リスクの軽減を図れるような運営に資すること。**
労務、査証、人権、税関、移転価格税制など各種セミナーを企画し、関係省庁との関係を強化すると共に、会員企業へ有益でタイムリーな情報を提供していくこと。
- ② 内政面におきましては、エンパワメントを進め、自主責任経営を徹底することにより、総合力を一層、発揮できる運営を目指したいと思います。
 - **副会頭の皆様、各種委員会運営においてはエンパワメントを一層、進め、自主的な運営を進めて頂きたいと存じます。**
 - **部会・地域部会におきましては、活動の活性化を目的に、「部会・地域部会の自主責任運営」を進めるべく、具体的な運営方針、目標、取組内容を定めて、参画型の 活性化された運営をお願いしたいと存じます。**

北栄さんに JACTIM に御越し頂き、事務局体制が充実し、徐々に対応力、スピード感が増してきているとは思いますが、成果の刈り取りはこれからが本番です。また、ファイナンスの面では、もう少し、プロフィットセンター化した運営も必要ではないかと感じています。何よりも、要望だけを述べる集団ではなく、何らかの処方箋を自ら考え、提案し、成果を刈り取れる JACTIM でありたいと思います。

日本では、2019 年 4 月 1 日に新元号が「令和」と定まり、新しい時代の到来を感じます。また、一昨年、マレーシアに御越しいただいた皇太子殿下が天皇に即位されることになり、とても感慨深く感じています。

すがすがしい気持ちで新年度を進めて参りたく、何卒、宜しく願い申し上げます。

以 上